

- 本日は、6 号機 制御棒駆動機構の電動機制御盤の警報発生について、調査結果がまとまりましたので、今後の工程とあわせて、ご説明させていただきます。
- 警報発生に関しては、のちほど、資料①をもとに堂園よりご説明をさせていただきますが、私からは概要についてご説明します。
- 工場などで様々な試験を行った結果、電動機の始動時に、電動機に電気を送る 3 本の電線のうち、1 本で、まれに電流の立ち上がりが遅くなるケースを確認しております。
その遅れ自体は、機器の正常な動作の範囲内であるにも関わらず、インバータがその遅れを異常と検知したものと判断しました。
- インバータの検知機能は、2023 年に設備を更新した際に、新たなインバータそのものに付加されていた機能です。
設備保護を目的として停止させる機能は、当初から別に備えられておりますので、不具合が発生した際に、原因を特定しやすくなるという観点で、その機能を設定していました。
- しかしながら、今回のような事案を踏まえると、安全上必要な機能でないことから、すべての制御棒駆動機構のインバータについて、検知しない設定といたしました。
- その上で、制御棒駆動機構を一つずつ動作させ、問題がないことを確認しております。

- 一方で、複数本同時に制御棒を引き抜く形での確認は、原子炉の起動操作の中でしか確認できないため、原子炉起動操作の中で、電動機の始動時に問題がないか、健全性の確認を行ってまいりたいと考えております。
- それを踏まえた、今後の 6 号機の起動工程については、資料 2 をご覧ください。
- 要員調整や事前の段取り確認などを進め、2 月 9 日より原子炉を起動する予定です。
また、現在の工程として、総合負荷性能検査を行える日を 3 月 18 日としておりますが、今回のように、起動対応中に不具合などを確認した場合は、関係者でしっかりと確認を行い、一つひとつ慎重に進めてまいります。
- なお、これらの内容を記載した、使用前確認変更申請書を、本日午後に原子力規制委員会へ提出する予定ですので、提出後にあらためてお知らせいたします。
- 本日私からは以上です。